令和３年度
普及活動実績

留萌農業をイノベーション
共に創ろう未来の農業

令和４年３月
留　萌　振　興　局
留萌農業改良普及センター

目　　次

Ⅰ　普及活動実績
1　留萌振興局管内における普及活動の動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　地域における普及活動実績

Ⅱ　課題別普及活動実績
1　重点的に取り組んだ地域課題一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
2　地域課題
(1) 羽幌町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
(2) 増毛町 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
3　広域推進一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4　広域推進事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
(1)　担い手　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
(2)　情報・クリーン・有機
ア　情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
イ　クリーン・有機 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
(3)　高付加価値化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

Ⅲ　普及業務実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
1　農作物生育状況調査
2　病害虫発生予察
3　試験展示ほ･実証ほ
4　その他（土壌診断等）

Ⅳ　普及活動成果のPR実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
1　ＰＲ実績一覧
2　農業雑誌等へ執筆・寄稿した内容
3　地域農業技術支援会議の開催実績
4　農業改良普及推進協議会等の開催実績
5　地域農業づくり懇談会の開催実績

Ⅰ　普及活動実績

1　留萌振興局管内における普及活動の動向

管内の農業生産は、近年の気象変動の影響や土地の生産力の低下などにより、農作物の収量・品質が不安定になることが多い。また、担い手の高齢化と減少により、労働力不足が地域の大きな課題となっている。そのため、地域農業を支える多様な担い手の育成・確保や持続可能な農業発展のための生産技術・経営の改善や地域農業支援システムづくりを支援する普及活動が必要である。

普及センターでは、これらを踏まえ普及活動基本方針の４項目を柱とする５か年の普及活動計画をもとに、地域の特性に応じて重点的かつ提案型の普及活動を関係機関・団体と連携して展開してきた。

留萌北部の酪農地帯では、植生改善や適期収穫等の自給飼料の品質向上と飼養管理改善、畜産クラスター事業等による大型協業法人・TMRセンター運営支援や省力化機械導入による生産性の向上に取り組んだ。

留萌中南部の耕種地帯では、基幹作物の水稲や小麦等の生産技術、低コスト･省力化を図る革新技術の導入により、安全・安心で良質な食料生産の効率化に取り組んだ。

(1) 普及活動の基本的な取り組み

ア　持続可能で生産性の高い農業・農村の確立
イ　国内外の需要を取り込む農業・農村の確立
ウ　多様な人材が活躍する農業・農村の確立
エ　道民の深い理解で支え合う農業・農村の確立

(2) 地域ニーズに対応した普及活動の重点化と提案型の普及活動

ア　地域ニーズに対応した課題の絞り込み

地域農業者から求められる様々な営農相談や市町村、農協等地域の関係機関からの協力依頼など地域農業振興の課題等について、地域での重要度や緊急度を勘案し、優先度の高い地域課題を設定した。

イ　課題の重点化と提案型の普及活動

重点的に取り組む地域課題の設定と具体的な推進事項による課題について重点対象地区を活動拠点として、提案型の普及活動を展開してきた。重点化した課題は、地域係が主体となり広域専門と連携して、計画的でかつ濃密的な指導・支援を展開した。

【 重点的に実践した内容】

○　ゆとりある豊かな地域農業の確立（羽幌町）
○　次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立　（増毛町）

ウ　重点的に取り組む普及課題の解決と地域への波及

普及課題で取り組み、成果の上がった内容は、市町村や農協等の地元関係機関、指導農業士・農業士、農業試験場、留萌振興局と連携して地域全体に波及するよう努めた。

エ　農業革新支援専門員の普及活動

農業革新支援専門員（主任普及指導員が担う）を配置し、農業者等からの高度かつ専門的な相談・支援を担った。また、広域班の業務及び地域係からの要請等に応じて、試験研究機関と連携を図りながら助言･指導を行った。

オ 地域農業技術支援会議、技術体系化チームと連携

地域農業技術支援会議、技術体系化チームと連携し、地域の緊急かつ重点的課題の解決に取り組んだ。

【プロジェクト課題】

○ 農業経営ビジョンを描くための地域の経営指標の把握
～地域に適合した経営指標、労働指標を作成するための手法の習得～

○ 留萌管内におけるスマート農業技術導入の現状と課題
～スマート農業の導入状況や効果を理解し、技術の普及にむけた情報蓄積をすすめる～

(3) 具体的活動内容

ア 持続可能で生産性の高い農業・農村の確立

(ｱ) 生産基盤の整備の推進

気象変動に対応できるほ場整備や土づくり等の技術支援に努め、留萌振興局農村振興課と連携し、畑作かんがい・田畑輪換・未来農業プロジェクト・草地植生改善を支援した。

また、ホクレン営農支援室と連携で、排水対策のためのカットドレーン実証ほを設置し、透排水性改善の重要性を示し、本年度も排水の有効性を確認した。

カットドレーンの施工

(ｲ) スマート農業導入への支援

苫前町や羽幌町で基地局の建設や、ハウス自動換気施設が導入され、スマート農業が導入され実証されている。また、留萌市でもホクレンのRTKシステム実演が行われるなどスマート農業に対する気運は盛り上がってきている。

(ｳ) 稲作

良食味で高品質な「売れる米づくり」の安定生産に向けて栽培技術の徹底を図った。 各地域でいもち病やカメムシ発生予察体制の整備が図られ、ホームページやFAX情報の提供に基づく防除対策も浸透し、被害が減少している。

令和３年の気象は概ね高温少雨で経過したことから一部地域で生育に影響したものの、作柄は作況指数107で、平年を上回る「良」となった。食味については、低タンパク米の出荷割合が、「ゆめぴりか」で70%(前年実績31%)と高品質となった。留萌地区「ゆめぴりかコンテスト」を開催し、低タンパクな留萌米の良食味評価を内外にＰＲできた。

もち米では、「風の子もち」を中心に作付けされており、品質と収量ともに平年を上回わる結果となった。また、担い手不足に対応する低コスト・省力化栽培に向けて、乾田・湛水直播栽培や密苗・高密度は種、疎植栽培の現地実証試験、現地研修会、試食会等を実施し、農業者への理解と地域への波及を進めた。

南留萌支所エリアでは、平成28年度より開始された基盤整備により大区画化された水田において安定生産技術の確立を目的に初期生育の向上を課題とし、各圃場巡回による会員相互の情報交換や、講習会などの組織活動支援と現地調査に基づく施肥管理等の技術支援を行った。

農業試験場や技術普及室との直播現地調査

(ｴ) 畑作

透排水性の改善、土壌pHの適正化、地域に適応した輪作や緑肥などを導入した土づくり推進に向け支援した。額縁明きょ、カットドレーンによる実証結果から、効果を実感した農家がカットドレーンを自ら実施する農家が現れた。

秋まき小麦や大豆の多様な品種に応じた肥培管理や病害虫防除のタイムリーな情報提供に努め、生産技術の徹底を図った。

(ｵ) 園芸作物

メロン、ミニトマト、かぼちゃ、アスパラガス等の野菜は、生産組織と連携して収量・品質の向上を目指し、肥培管理技術の普及、省力技術の導入･開発など、野菜経営の安定化に向けて支援した。

また無加温ビニールハウスで行う冬期間の野菜栽培も５年目を迎え、農業試験場や技術普及室の支援も受け、冬期間野菜栽培に取り組む生産者の技術が向上してきている。

(ｶ) 果樹

増毛町の果樹では、４月下旬の凍霜害によりおうとうとりんごの花芽に影響を受けたため、普及センターでも早急に技術対策を行い､また、振興局の販売促進や農業試験場や技術普及室と連携し栽培技術を提案し、生産の安定に結びついた。

排水対策の実施

無加温冬野菜ゼミナール

霜害状況確認

(ｷ) 畜産・肉牛

北留萌地区では自給飼料基盤を活かした酪農経営の確立をめざし、植生に合わせた草地利用や収穫適期がイメージできるほ場台帳整備による適期収穫により、一番牧草の品質を向上させた。また、ＴＭＲセンターの順調な稼働に向け支援した。

集約放牧経営の拡大に向けては、「天塩町放牧研究会」や民間と連携・協業して、Ｗｅｂ会議を開催した。さらに良質乳生産に向け「留萌酪農対策協議会」やＪＡ職員と連携し、農場の実態調査や改善提案を行い、乳質改善に結びついている。

肉用牛（和牛繁殖経営）では、南留萌地区の「小平町和牛生産改良組合」を中心にＪＡ職員と共同で巡回し、繁殖管理の啓発と繁殖成績の改善に向け支援した。

北留萌地区の「天塩和牛振興会」において、各農場の課題を整理し、改善取組支援や肥育素牛管理の重要性を研修会で確認した。また、

和牛改良組合巡回

哺育育成管理巡回

(ｸ) 安全・安心な食料の安定生産

病害虫の発生予察などの作物管理技術支援や農薬の適正使用など、安全・安心な食料生産に向け支援した。

(ｹ) ＧＡＰ普及指導体制の構築

ＧＡＰへの理解と普及を図るために、管内の情報収集を実施した。

遠別農業高校でASIAGAP認証再取得意向があり、ASIAGAPのﾊﾞｰｼﾞｮﾝ2.3審査の支援を行い、青果物２品目、穀物１品目の認証を取得した。

増毛町でＧＡＰ手法を学ぶ意向のあるグループがあり、そのグループを中心に労働環境改善の検討について推進した。

遠別農業高校ＧＡＰ審査

(ｺ) クリーン農業の推進

「Yes!clean農産物」や特別栽培、有機栽培、エコファーマーなどの取り組みを支援し実需者ニーズに対応した産地の育成に努めた。

(ｻ) 環境と調和した持続的農業の推進と防疫対策の推進

家畜伝染病の発生予防とまん延防止に向け、地域一丸となって意識啓発を図り、留萌振興局と連携し防疫体制の再確認と徹底を図った。

イ 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

(ｱ) 地域特産品の開発や６次産業化への支援

北海道初の色素取り紫さつまいもの栽培の支援を試験場や遠別農業高校、名寄市立大学など関係機関と協力して行っている。本年は栽培面積が昨年までの２倍以上の414aとなった。生産技術が確立していないため、様々なトラブルがあったが、収穫量は高温の影響もあり、1,300kg/10aを超えた。

遠別農業高校さつまいも授業

ウ　多様な人材が活躍する農業・農村の確立

(ｱ)　新規就農者の確保と育成

新規就農者の受入制度や研修制度の整備については、るもい就農等支援推進モデル事業を導入し取り組みをすすめた。合わせて「るもい担い手対策推進会議」を開催し、ＪＡや市町村、指導農業士、農業士等と連携して酪農学園大学からの講師による研修会の開催や、管内では先進的に取り組んでいるオロロン地区(羽幌町、初山別村、遠別町)担い手協議会の情報を共有しながら取り組んだ。

若手農業者への支援は、農業技術の習得と仲間づくりを目的に「るもい農業基礎ゼミナール」を開講した。各市町村から対象者に呼びかけ、稲作・畑作・園芸・畜産(酪農、肉牛)の講座を開講し、令和３年度は21名のゼミナール生が受講した。

るもい農業基礎ゼミナール

(ｲ)　農作業受委託組織や農業法人の設立運営支援

ＪＡ・市町村と連携して、農作業受委託組織や農業法人の設立運営に向け支援してきた。特に天塩町、苫前町、遠別町の酪農経営で、法人運営や地域営農支援システムの設立・稼働に向け支援をした。福利厚生や、従業員の定着化、雇用の確保について管外の農業法人や、管内の先進的に取り組んでいる農業法人の事例紹介等の研修会や情報交換会を開催した。各市町村の農業法人は個別農家の高齢化や農家戸数の減少、労働力不足による耕作地の受け皿として地域の農業生産の核となっている。このため、農地の有効利用や雇用就農等、様々な課題を検討できる場として支援している。

留萌管内４Hクラブ連絡協議会

(ｳ)　４Ｈクラブ、青年農業者及び女性農業者グループ活動支援、農業高校との連携活動

遠別町４Ｈクラブ・小平町４Ｈクラブ、羽幌町・初山別村ピンクファイブなどの青年農業者グループ及び留萌管内４Ｈクラブ連絡協議会の活動活性化に向け支援した。　本年はファーマーズトークinRUMOIを交流研修会として２日間開催した。遠別農業高校と連携し、４Ｈ連協との意見交換会等により、高校生とお互いによい刺激を受け営農意欲の向上や、高校生の就農意欲につながったと思われる。また４Ｈクラブ連絡協議会から、全国青年農業者会議の意見発表部門に出場した青年が農林水産大

臣賞を獲得した。

また、女性農業者グループの留萌管内農村女性ネットワーク”オロロン”の組織活動およびネットワーク通信の作成・発行、「農業まるごとふれあい広場」の開催を支援したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和３年度も「農業まるごとふれあい広場」は開催できなかった。各組織では、会員の高齢化や減少により、活動の維持・存続が困難な状況になっていることから、若手女性農業者への声かけや組織運営への検討に向け支援をした。

(ｴ) 若手女性農業者の活動活性化

「新・なでしこ農業塾」の開講で発足した若手酪農女性５名で組織する、「Windmillk（ウィンドミルク）」の自主的活動を支援した。

新たに若手女性グループ「ポティロン」が管内で結成し、「まるごとふれあい広場」に開催するためカボチャと馬鈴薯を栽培したが、コロナウイルスにより、開催できなかった。

若手女性グループ　チーズ加工

エ 道民の深い理解で支え合う農業・農村の確立

(ｱ) 農業への理解と消費者との交流促進

農業者から消費者への農産物販売を通して農業への理解を深めるために、土・日に開催される直売活動を支援し、消費者との交流を支援した。「農業まるごとふれあい広場」は令和３年度も新型コロナウイルスのために開催できなかった。

(ｲ) 「食」と「農」の推進

園児・小学生を対象にした 田植え・収穫作業やばれいしょ植付・収穫作 業などの農業体験を通して、「食」や「農」、「自然環境」などに触れる取り組みを農業者と連携して支援した。

(ｳ) 農村食文化の伝承と食文化づくりへの支援

女性農業者グループが取り組む食文化や農作業技術の伝承などの活動を支援し、遠別農業高校生が先輩女性農業者にそれらを学び構内のプロジェクト発表を行った。

小学生の田んぼ収穫

令和3年度普及活動実績ＰＲ版

ゆとりある豊かな地域農業の確立

～ 魅力！活力！省力！次代につながる地域農業 ～［本所地域係］

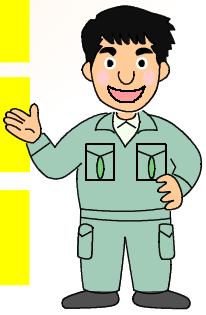
1　背　景

省力化 水稲湛水直播

安定生産 排水性改善

コスト低減 機械共同利用

普及センター



2　取り組み

(1)　水稲省力栽培技術の向上

適切な種子予措支援
（カルパー粉衣）

適切なは種支援
（は種期、は種量）

現地研修会
（調査をもとに情報提供）

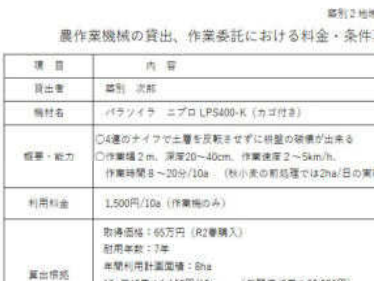
(2) 畑作物の安定生産による収益性向上

排水性改善支援
（カットドレーンの施工）

緑肥栽培支援
（生育状況の把握）

(3) 機械のコスト低減と生産性向上

機械利用の聞き取り



別2地域

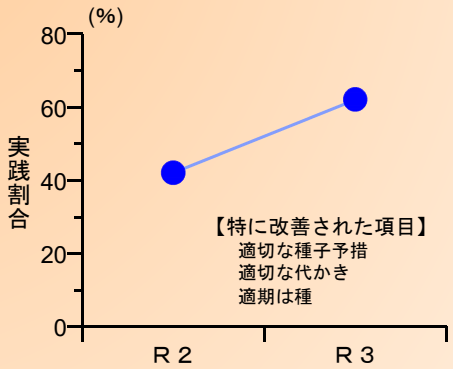
農作業機械の貸出、作業委託における料金・条件

項　目	内　容
貸出者	幕別　次郎
機材名	パラソイラ　エプロ LPS400-K（カゴ付き）
概要・能力	□4連のナイフで土層を反転させずに根盤の破壊が出来る □作業幅2m、深度20～40cm、作業速度2～5km/h、 作業時間8～20分/10a（秋小麦の前処理では2ha/日の実
利用料金	1,500円/10a（作業機のみ）
算出根拠	取得価格：65万円（R2導購入） 耐用年数：7年 年間利用計画面積：8ha

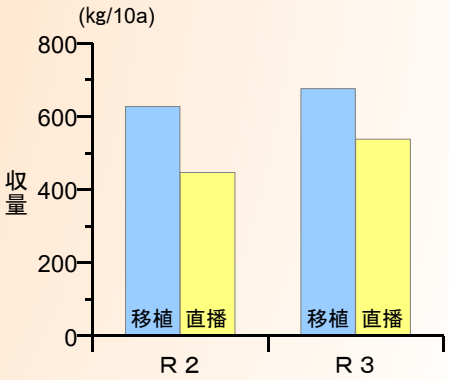
機械の貸出票を作成し提案

3　成　果

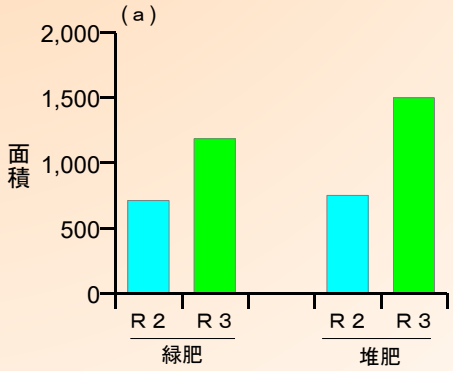
湛水直播技術の実践が進み、収量も移植栽培との差が減ってきました。また、緑肥栽培と堆肥施用の面積も増加し、その効果も実感してきています。



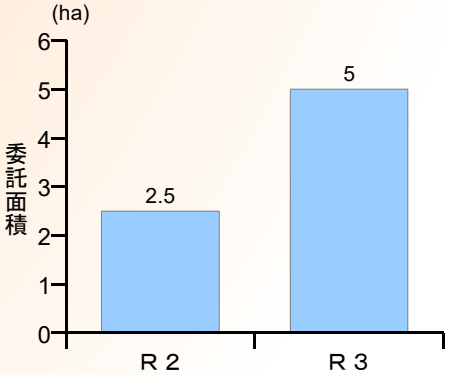
湛水直播栽培の技術実践割合が向上



移植栽培との収量差が縮まってきた

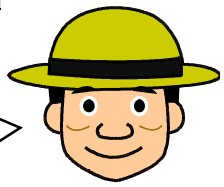


緑肥栽培、堆肥施用の面積が増加



作業受委託の面積が増加

今年の直播生育がいいな。面積増やしても良いかな



ぬかるほ場は散播で栽培できないかな

緑肥すき込んだ畑は、耕起・砕土が容易になったよ

4　今後の対応

(1) 水稲省力栽培技術の向上

技術的な改善点を整理し提案・実施する。

(2) 畑作物の安定生産による収益性向上

緑肥栽培・堆肥施用の定着。排水性改善及び生産性向上効果の確認と定着を図る。

(3) 機械のコスト低減と生産性向上

機械利用方法や作業受委託の検討、提案する。

次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立

～ 増毛町の特別なお米を苅り取り、将来にわたって皆様に届けます～

留萌農業改良普及センター南留萌支所

○活動期間　令和3～7年度
○対象地域　増毛町別苅（10戸）

1　背　景

● １戸当たり平均面積は8.8haである。基幹品目は水稲、転作田はそばで一部果樹が栽培されている。
●平成28年度より開始された基盤整備により、水田面積は大区画化されている一方で土壌診断に基づく施肥や土づくりが必要となっている（写真１）。
●高齢化に伴う若手農業者への農地集積が見込まれており、今後の地域農業を持続するための担い手の育成や労働力軽減対策などの体制整備が急務である。
●対象地区の農業者は当該地域に居住しておらず、農業者間で将来の方向性を話し合う場が無いため、集まる場の創出と検討が必要である。

写真１　基盤整備工事

2　取り組み

(1)「水稲安定生産技術の確立」

ア　初期生育改善の技術項目を選定して取り組んだ。また、施肥設計に関する戸別面談の他、定期的な育苗巡回、さらに、初期生育の向上を目的に生育状況や管理状況を確認し講習会を開催し理解を深めた（写真２，３）。
イ　地域との関係作りや生育調査結果及び栽培管理について別苅クラブ通信により定期的に情報を発信した（図１）。
ウ　水稲管理技術の向上を目的に農業基礎ゼミナールを開催し新規担い手の育成を行った（対象２戸、計３回）（写真４）。

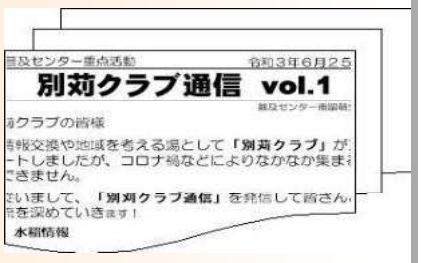


図１　別苅クラブ通信（通信紙）

写真２　施肥面談の様子

写真３　育苗講習会の様子

写真４　基礎ゼミナール

(2)効率的な労働環境の整備

ア　特別栽培米作付農業者を巡回し、ＧＡＰ手法を活用した労働環境改善の検討について推進した（写真５）。

写真５　戸別巡回

(3)「地域農業を考える会の設立」

ア　地域の課題と解決策について戸別巡回を中心に意向調査を行い、話し合う場が必要であることの合意を図った。
イ　農業者への聞き取りから「農業者が考えた地域の課題と解決策」を整理し、戸別巡回の他、別苅クラブ通信やリーダーを通じて地域農業者と情報交換や意向確認を行った。

３　成　果

(1)水稲安定生産技術の確立・4戸達成！

ア　４戸の農業者が初期生育改善技術を達成出来た（技術達成・総合評価）。なお、技術を達成した農業者は未達成農業者に比べ初期茎数・収量・品質が上回った（表１）。

表１　初期生育向上の取組結果及び評価項目

氏名	育苗様式	土壌診断結果に基づいた施肥管理	苗質	移植日	植付深度	栽植密度	水管理（分げつ期）	技術達成（総合評価）	初期茎数（本/㎡）	収量（kg/10a）	タンパク質含有率（%）	品種	備考
A	成苗ポット	○	○	○	△	○	○	○	478	545	5.0	ゆめぴりか	特栽
E	成苗ポット	○	○	○	△	○	○	○	564	662	6.1	ゆめぴりか	特栽
H	成苗ポット	○	△	○	○	○	○	○	354	572	6.0	ゆめぴりか	特栽
J	稚苗マット	○	○	○	○	○	○	○	635	653	6.0	ゆめぴりか	特栽
B	中苗マット	×	△	○	△	○	△	△	487	723	6.6	ななつぼし	
C、D	成苗ポット	×	△	○	×	×	△	×	328	551	6.6	ゆめぴりか	
F	成苗ポット	×	－	○	－	×	－	×	－	405	5.7	ゆめぴりか	※4
I	成苗ポット	×	△	○	○	×	△	△	308	472	6.2	ゆめぴりか	

○：達成出来た　△：もう少し　×：達成出来なかった　品種：ゆめぴりか（B農家除く）

○初期茎数：技術達成農家４戸平均　507本/㎡　未達成農家２戸平均　318本/㎡
○収量：技術達成農家４戸平均　608kg/10a　未達成農家３戸平均476kg/10a
○ﾀﾝﾊﾟｸ含有率：技術達成農家４戸平均5.8%　未達成農家３戸平均 6.2%
【品種：ゆめぴりか】

イ　対象者の栽培管理・生産実態を調査・情報共有することで農業者の技術項目改善への意欲が高まった。

ウ　農業基礎ゼミナールへ２戸が参加し、研修会を通じ水稲栽培の基礎技術について認識が深まった。

～農家の声～

★他の農業者との生育の違いや管理実態について知る機会が無かったので良い機会になった。
★初期生育を向上させる基本技術を実践することが良質米の安定生産につながることが理解できた

(2)効率的な労働環境の整備

ア　特別栽培米に取り組む農業者３戸で、危険リスクの回避など労働環境の改善点を検討する動きが見られた。

(3)地域農業を考える会の設立・「別苅クラブ」の誕生」

ア　農家が考えた地域の課題と解決策」をもとに、地域の現状と将来を話し合う場として関係機関と連携して「別苅クラブ」の設立に至った（図２、写真６）。

イ　地域の将来について機運が高まり「別苅クラブ」が開催され、話し合いの結果から地域の課題と解決策を整理することが出来た（表２）。

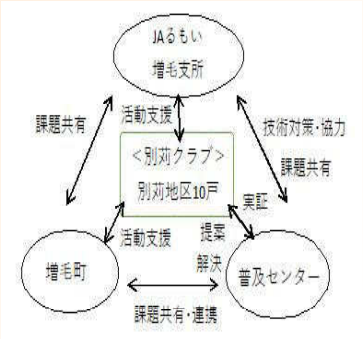


図２　別苅クラブ

表２　共有できた課題一覧

農家が考えた	
地域の課題	解決策
用水路の維持管理	一部外部委託へ
受託組織の維持（そば受託組織）	オペレーター増員 機材費の積み立て
受託組織の維持（ヘリ防除）	ドローン防除組合の設立 ＩＣＴ技術の導入
鳥獣害対策	耕作放棄地対策、罠の充実
不作地対策	売買促進・町の購入
新規畑作物の導入（小麦・大豆）	助成制度の充実 農機具の共同利用
新規就農者対策	育成者の養成、町の施策
高齢者の活躍	農地売買の促進、何かに取組

４　今後の対応

ア　水稲安定生産技術の確立
・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施
・病害虫発生予察に基づく防除の実施

イ　地域を考える会（別苅クラブ）の活動支援
・労働環境の改善
・課題解決の取り組み

写真６　別苅クラブ懇談会

青年農業者組織の活性化
～ファーマーズトークinRUMOIで4H連協の活動がパワーアップ～

［広域・担い手］

1　背　景

●留萌管内青年農業者会議は４Ｈクラブ連絡協議会会員の減少とそれに伴う発表課題の減少等で、開催の存続が危ぶまれた時期もあった。

●管内青年農業者会議を意義あるものにするために、H29年より「ファーマーズトークinRUMOI」と改名し、発表ありきのプロジェクトではなく、誰もが参加しやすいような形に変更した。

●どんなテーマでも良いので日々の農業経営や生活の中から課題を見つけワンペーパーの「取組シート」にまとめ情報交換や先輩農業者等からアドバイスをもらう形をとったことで、年々発表数も増え、留萌４Ｈクラブ連絡協議会加入組織の活動活性化につながった。

●令和２年度は、新型コロナの影響でファーマーズトークinRUMOIは開催できず、青年のモチベーションの低下が危惧された。また、青年からはファーマーズトークinRUMOIも５年目を迎え、マンネリ化を防ぎたいといった意見も上がっていた。

2　取り組み

(1)　「ファーマーズトークinRUMOI」の内容協議

運営会議の中で、令和４年度のファーマーズトークinRUMOIが盛り上がるにはどうしたらよいか協議。

↓

「自分たちがやりたいこと・知りたいこと」を盛り込もう！！

やりたいこと①

遠別農業高校との交流

やりたいこと②

講演会

４Ｈ活動を熱く語る他管内の仲間の話を会員全員に聞かせたい！（by 北海道アグリネットワーク留萌代表役員）

(2)　「ファーマーズトークinRUMOI」開催に向けた準備（役割分担）

青年自らできるところは自分たちで！普及センター・振興局はフォローアップ

４HC連協

・講師への依頼交渉
・遠別農業高校への出席依頼交渉
・当日の役割分担
（会場設営・司会進行・お弁当発注）

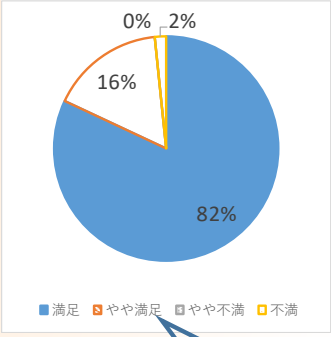
振興局・普及センター

・会場予約
・取組シート作成支援
・講師依頼に係わる事務処理
・開催に係わる案内文書、資料等作成
・出席者取りまとめ

３　成　果

ファーマーズトークinRUMOI・交流研修会として２日間開催で実現

「やりたいこと」を全て盛り込んで開催した結果、出席者の98%が満足～やや満足する結果に！



ファーマーズトークinRUMOIを機に連協に１名加入

自分たちが企画運営したファーマーズトークinRUMOI・交流研修会が盛り上がり自信につながった!

北海道青年農業者会議への参加

４ＨＣ連絡協議会秋山会長がアグリメッセージ部門に参加し、最優秀賞受賞！！
全国青年農業者会議に派遣され、意見発表部門「農林水産大臣賞」受賞！！

次年度は自分たちも続くぞ！

アグリメッセージ・取組紹介（プロジェクト発表）に意欲!

遠別農業高校とプロジェクト共有化の動き

遠農とプロジェクトや取組を年度当初から共有し、互いに協力し合いながら課題を解決できないかと協議中。

遠農との連携強化

４　今後の対応

（1）４Ｈ連協の活動の支援継続
（2）４Ｈクラブを含めた若手農業者の育成支援体制づくりに向けた関係機関との連携

遠別農業高校へのGAP支援

［広域：情報・クリーン・有機］

１ 背　景

●遠別農業高校では、地域や関係機関・企業等との連携を図りながら高品質な農作物や加工品の生産を実践することを学習指導の目標としている。また。持続可能な農業を考える上で、ＧＡＰに取り組むことは重要であった。

●令和元年度にＡＳＩＡＧＡＰ　Ver2.1（青果物8品目、穀物3品目）の認証を取得し、ＧＡＰ取り組みを継続していた。

●令和３年度は、認証更新年であったが、担当教師の変更や審査費用の高騰によりＧＡＰ認証品目数の検討を行った結果、新規認証ＡＳＩＡＧＡＰ　Ver2.3（青果物2品目、穀物1品目）認証を目指すことになった。普及センターは、遠別農業高校の新担当教諭と連携し、ＧＡＰ認証へ向けて支援を行った。

写真１　遠別農業高校

２ 取り組み

(1)遠別農業高校担当教諭との打合せ(4/28　他)

・今年度認証取得に向けて、準備のスケジュール等について打合せを行った。

・今年度、遠別農業高校の担当者が変わったため、都度打合せを行った。

・今年度の取り組み学年は、昨年度からＧＡＰに取り組んでいる３年生であるため、授業は高校で対応した。

(2)ＧＡＰ認証へ向けての内部審査(10/14)

・普及センターおよび農務課職員が連携し、事前内部審査を行い、ＧＡＰ認証関係書類やの整備状況の確認を行った。

・施設、資材の管理状況の確認（一例：下の写真）

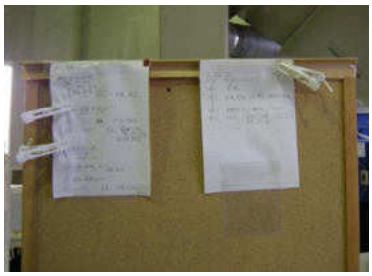
肥料の保管状況

オイル等の保管状況

資材の保管状況

機械の保管状況

施設使用手順の掲示



作業連絡メモの状況

３　成　果

ＡＳＩＡＧＡＰ認証審査（11/8-9）

●生徒のＧＡＰへの関心・理解度が深まった

ＧＡＰ認証審査では、３年生全員参加で行われた。

生徒の代表者４名が中心となって審査員の受け答えに対応した。４名以外の生徒からも活発な発言が出され、ＧＡＰへの高い関心や理解が進んでいることが伺えられた（写真２）。

●ＧＡＰを理解しての作業

審査では、ほ場の確認や実際の作業（ばれいしょの袋詰め）の確認も行われた（写真３、４）。

生徒による作業は、ＧＡＰに即した作業であることが確認され、生徒によるＧＡＰへの理解が進んでいることが確認された。

写真２　生徒４名が中心に審査を受ける

●ＡＳＩＡＧＡＰ　Ver2.3認証取得！

書類確認で、一部不適合箇所が出されたが、是正報告を行い、青果物２品目、穀物１品目の認証取得することができた。

写真３　ほ場の確認

写真４　ばれいしょの袋詰め作業を確認

４　今後の対応

(1)遠別農業高校においての継続的なＧＡＰ取り組み支援

・遠別農業高校とは、これまで同様に連携して生徒へのＧＡＰ取り組み理解を推進していく。

・また来年度は、これまでＧＡＰに取り組んでいない生徒が対象となるので、カリキュラム等の見直しを行い、ＧＡＰ理解促進を支援していく必要がある。

(2)ＡＳＩＡＧＡＰ維持審査へ向けての支援

・維持審査では、今年度見られなかった作業状況や書類が審査される。遠別農業高校の担当教諭と連携し、スムーズな審査になるように支援を行っていく。

飛躍する一歩となるか！

～ 遠別町における紫さつまいも栽培取り組み ～［高付加価値化］

1 背　景

●遠別町の色素加工メーカーである鹿遠産業株式会社と地地元農業法人緑進との「色素用紫さつまいも栽培」は、「寒冷地での安定生産」及び「新たな特産品開発」に向けて試験研究機関等が連携し、支援を行っている。

●これまでの九州産色素を賄っていた農家の生産中止により、Ｒ３年度から遠別町＋九州の契約色素量(計50ｔ)を生産することとなっている。

●色素業界を含め、「さつまいも」を取り巻く情勢に変化が見られており、「北海道産さつまいも」が注目され始めている。

写真　紫さつまいも（断面）

2 取り組み

(1) 安定生産に向けた取り組み

◇これまでの重要課題「欠株率低下」に向けて

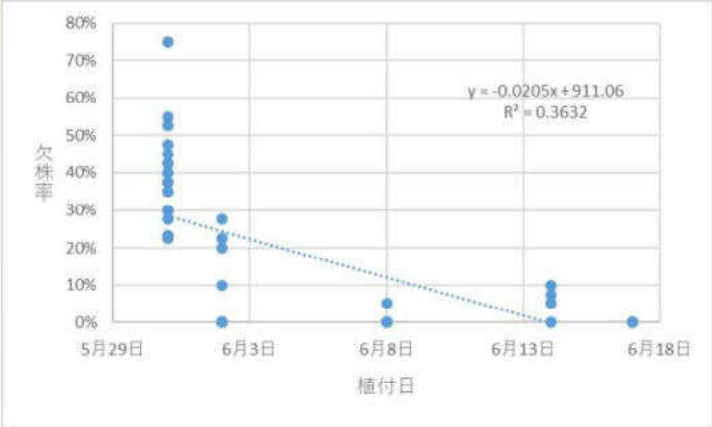


図　植付日と欠株率（鹿遠産業試験ほ）

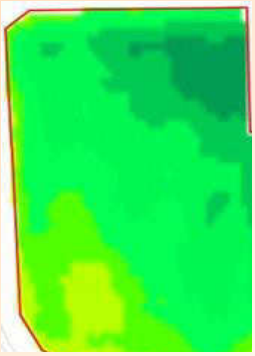
いろいろ試しましたが…

植え付け日が重要なことを知りました。

植え付け日の適正化が必要

(2) 生産拡大に向けて

【移植機の導入】　【生育診断の実施】　【種いも貯蔵にチャレンジ】



〈1,500株/時間の植え付け〉　〈8/20衛星撮影〉〈植付時期適正化のため採苗に挑戦〉

(3) 新たな用途の開発

味に関してはイマイチ…

民間研究機関に抽出残さ物も含め有効成分の探索を依頼！

3　成　果

(1) 契約生産量の達成

	H29	H30	R 1	R 2	R 3
作付面積(ａ)	20	20	144	181	414
収穫量（ｔ）	1.7	1.1	9.9	9.6	55.3
10a収量(kg)	837	537	685	531	1,338

作付面積が倍増したが、機械化や関係機関連携した栽培技術支援等により、目標収穫量50ｔをクリア

(2) 今後の情勢に対応できる生産体制の整備

【色素業界の動き】
- 国による色素を含む加工食品の輸出促進
- 国内色素業界のＢＣＰ(事業継続計画)の推進
  →国内産色素の枯渇を防ぐため産地間連携

【国内産さつまいもの動き】
- 国内外におけるさつまいも需要の増加
- 「基腐病」による生産量の低下

色素業界及びさつまいも全体の生産においても生産者にプラスの方向となっている。遠別町における取り組みは、いろいろな情勢に対応可能。

今後、飛躍する可能性が！

4　今後の対応

(1) これまでの[安定生産技術の確立」と併せ「採苗技術の確立」により植え付け時期の適正化を図っていく。

(2)「色素取り」の安定生産を第一に進めるが、今後のさつまいもを巡る情勢を鑑みながら、地域の飛躍へと繋がるよう方向性について協議・検討していく。